

【ご参考資料】

2013年11月11日

格付会社S&Pによるフランスの格下げについて

格付をAA+からAAに引き下げ

2013年11月8日、格付会社S&P(スタンダード・アンド・プアーズ)は、フランスの外貨建ておよび自国通貨建て長期債務格付を「AA+」から「AA」へ1段階引き下げました。見通しは「安定的」としました。

今回の格下げの背景についてS&Pは、フランス政府が現在取り組んでいる税制や労働市場等の改革が、同国の中期的な経済成長見通しの大幅な引き上げにはつながらず、足元の高水準の失業率が財政等の分野における更なる改革遂行の妨げとなるとの見方を示しています。

また、同国政府が大幅な歳出削減を実施できず、財政健全化の試みが、すでに高水準に達している税負担の更なる引き上げに依存している点を指摘し、これが財政の柔軟性を低下させているとしています。そして、低水準の経済成長率がフランスの公的債務削減の足枷になるであろうとの見解を示しています。

なお、信用格付の見通しについては、今後2年間における同国の格上げ・格下げの確率が三分の一に満たないとの同社の見方にに基づき、「安定的」としています。

ECB(欧州中央銀行)の利下げもありユーロ安に

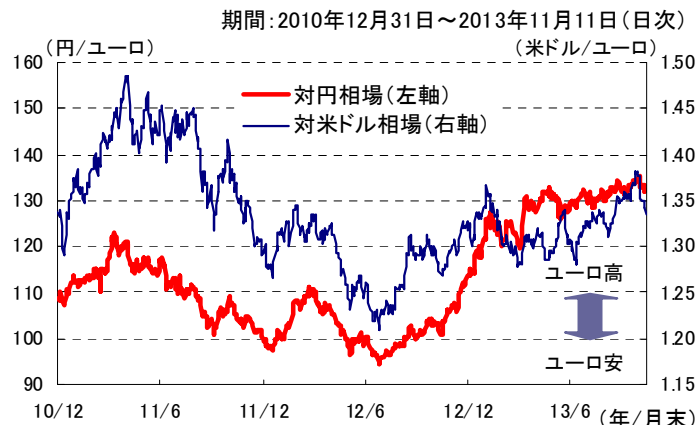
11月8日、東京外国為替市場におけるユーロ相場は、前日7日にECB(欧州中央銀行)が市場予想に反して利下げを決定した影響もあり、対円で前日比1.2%程度、対米ドルで同0.6%程度のユーロ安となりました。フランス格下げのユーロ相場への影響は限定的でした。

以上

【図1】フランスの自国通貨建て・外貨建て長期債務格付 (2013年11月8日現在)

格付会社	11月8日発表	11月8日発表以前
S&P	AA (見通しは「安定的」)	AA+
(参考) ムーディーズ	Aa1 (見通しは「ネガティブ」)	(参考) フィッチ
		AA+ (見通しは「安定的」)

【図2】ユーロの対円・対米ドルレートの推移



(注) 2013年11月11日は日本時間午前9時頃の値

(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成